

奨学金システム機能要件書

別紙 2

機能		機能要件	
1	権限設定	1	職員ごとにユーザーID、パスワードが設定できること。
		2	管理者により、職員権限の設定、変更ができること。
2	入力補助	3	必須入力項目には、マークを明示的に表示し、操作者が容易に認識できること。
		4	日付入力は西暦、和暦（年号英字・数字）、カレンダーボタン入力に対応していること。
		5	エラーメッセージは色分けやポップアップ等により、視覚的に容易に認識できること。
3	画面遷移	6	複数の画面を同時に起動できること。
		7	該当者検索時に、検索結果一覧画面において、並び順を変更できること。
4	操作ログ	8	操作情報（ユーザ、端末、場所、日時、画面、内容）が記録できること。
		9	記録された操作情報は参照できること。
5	ケース管理	10	奨学生・奨学生の保護者・連帯保証人等の管理をするため、宛名情報の管理（登録・修正・削除）ができること。宛名情報の登録はシステム入力画面より手入力にて入力できること。
		11	宛名情報として登録する情報は、郵便番号・住所・氏名・性別・生年月日が登録できること。
		12	奨学生ごとに奨学生番号を符番でき、番号で管理できること。
		13	宛名情報の住所欄を変更することで、書類の送付先を容易に変更できること。
		14	住所と送付先が異なるケースに対応するため、奨学生ごとに送付先氏名・送付先郵便番号・送付先住所の情報を保持できること。また、送付先に情報が入っている奨学生については、通常の住所ではなく、送付先情報が優先された帳票が作成されること。
		15	電話番号の登録、管理ができること。
		16	奨学生の連帯保証人について2名まで登録ができること（保護者1名・連帯保証人1名の計2名が管理できることも可）。
		17	奨学生・連帯保証人ごとに債務整理にかかる情報の管理ができること。対象者へは口座振替や納付書の発行等の請求をしないよう設定できること。
18	交渉記録の管理（登録・修正含む）ができること。		
6	貸与	19	奨学生ごとに、奨学金の送金日、金額、送金先口座情報を管理できること。
		20	奨学生ごとに、貸与予定額・貸与予定日・照会時点の貸与総額を管理できること。
		21	貸与記録の修正ができること。
		22	奨学金の貸与金額について、奨学金種別（高校入学準備金・高校奨学金・大学入学準備金・大学奨学金）ごとに把握できる仕組みがあること。
7	調停	23	貸与総額をもとに、調停を立て、償還計画（償還予定月の設定）を作成できること。
		24	償還計画の償還最大回数は999回まで対応できること。
8	償還	25	償還は、月賦・半年賦・年賦から選択できること。
		26	償還計画で設定した月・償還額で納付書の発行ができること。
		27	納付書の発行は、指定した月の納付書を全対象者分一括で発行できること。
		28	納付書の発行は、指定した月の納付書を任意の対象者を指定し個別に発行できること。
		29	納付書には市長名を印字できること。登録する市長名については、職員作業で変更できること。
		30	納付書の作成時、鑑文が同時に作成されること。鑑文には、貸与総額、既収納金額、請求額が表示されること。
		31	納付書の再発行ができること。その際に、納付書や鑑文の送付日や納期限を再設定できること。
		32	口座振替データが作成できること。
		33	口座振替データ作成時、職員がチェックを行うために、対象データを一覧で出力できること。
		34	口座振替と納付書による納付の二重の請求が発生しないよう、定期的な償還として納付書を発行する際は、口座振替対象者については納付書が発行されないこと。また、定期的な償還として口座振替データを作成する場合も同様に、納付書発行対象者については口座振替データが作成されないこと。

機能		機能要件	
		35	口座振替対象者についても、滞納分については納付書が発行できること。
		36	納付書による収入情報については、バーコード読み取りで更新ができること。
		37	バーコード読み取り実施後、職員が再チェックするために更新結果一覧が表示されること。
		38	引落口座情報の管理（登録・修正・削除）ができること。
		39	引落口座は奨学生本人以外の口座も登録できること。
		40	引き落とし結果データをシステムに取り込むことで、収入情報を一括で更新できること。
		41	引き落とし結果データをシステムに取り込んだ後、職員がチェックを行うために、結果一覧を出力できること。
		42	納付書と口座振替による収入情報の更新を行った際に表示される結果一覧について、次のオペレーションを実施するまでデータを保持できること。
9	支払猶予	43	償還計画を変更することができること。償還計画の変更については、変更後の償還期間、1回あたりの償還金額、償還の方法（月賦・半年賦・年賦や支払方法の選択）等を選択することで、償還済以外の償還予定のみが変更されること。また、既に調停処理や納付書発行、督促状等の発行業務が行われている奨学生についても、特別な操作なしに同様に償還計画の変更ができること。
		44	支払猶予の履歴を管理できること。
		45	支払猶予を決定した場合、償還計画の変更手続きを行わずとも、猶予期間の償還計画が後にずれ込むようにできること。
10	支払免除	46	複数回の猶予に対応できること。
		47	支払免除の履歴を管理できること。免除は全額免除以外にも一部免除のケースにも対応できること。
11	督促・催告	48	支払免除を決定した場合は、免除した期間については、納付書や口座振替データの作成が行われないよう工夫がなされていること。
		49	奨学生からの問い合わせに対応できるよう、指定日時点の滞納額をシステムで表示できること。
		50	指定日時点の滞納額で督促状を奨学生ごとに作成できること。
		51	指定日時点の滞納額で催告書を奨学生ごとに作成できること。
		52	督促状・催告書の発行時、滞納額分の納付書が同時に発行されること。
		53	督促状、催告書及び納付書は、滞納が複数月に渡る場合でも1枚にまとめて出力されること。
		54	指定日時点の滞納額で、滞納者全員に対する督促状・催告書・納付書を一括で発行できること。
		55	督促状・催告書・納付書の再発行ができること。その際に、督促状・催告書・納付書の送付日や納期限を再設定できること。
12	償還完了	56	督促状・催告書には、貸与総額、既収納金額、今回請求額が表示されること。
		57	指定した月に償還が完了した人を一覧で抽出できること。完了した月の指定は、償還予定月ではなく、納付された最終月をキーとすること。
13	メンテナンス	58	無償で元号改正に対応できること。
		59	金融機関情報の追加、更新ができること。
		60	旧システムから抽出したCSVファイルをもとに、新システムにデータ移行できること。
14	ファイル取得	61	奨学生番号・奨学生氏名・住所・連帯保証人氏名・連帯保証人住所・償還期間・貸与総額・絶対償還額（抽出時点までに償還が必要な額）・収納額・滞納額・猶予の有無・免除の有無がエクセルファイルで一覧で抽出できること。滞納額等については、猶予や免除がある場合はそれを反映した情報となること。また、収納額・滞納額については、過年度分（滞納繰越分）と現年度分で分かれて表示されること。
		62	奨学生及び連帯保証人に送付する帳票については、元号に加えて西暦を併記できること。
	その他	63	バックアップは日次とし、1週間保管されること。
		64	奨学生・連帯保証人の検索方法について、フリーワード検索ができること（奨学生番号・奨学生氏名・生年月日・連帯保証人氏名等の様々な関連ワードで検索可能であること）。